

# 西神ニュータウン研究会 会報

第213号 2021年9月

## ■第213回例会記録

- ・日時 2021年8月7日(土) 14:00~16:00
- ・場所 ユニティ セミナー室1+2 ・参加者17名
- ・テーマ 「コロナ禍におけるコミュニケーション」
- ・講師 植野 和文 氏 (兵庫県立大学 名誉教授)



## ■コロナ禍による交流社会の変容

三密の回避→通販、テレワーク+遠隔授業  
→住みよさの条件の変化 ⇔ 公共交通サービスの縮小

### 交流社会とコロナ禍

- 交流の3タイプ
  - ① 人の移動: 必要な場所へ出向く(交通)
  - ② モノの移動: 欲しいモノが届く(流通)
  - ③ 情報の移動: 情報を受発信する(通信)
- 交流の革命 ⇒ 交流社会の成立
  - 1) 交通革命: 高速、長距離、多頻度、廉価 ⇒ インバウンド
  - 2) 流通革命: 短時間、遠距離、豊富な種類 ⇒ 通販の普及
  - 3) 通信革命: 高速、大量、メディアの個人化 ⇒ 通信の常態化
- コロナ禍による交流社会の変容
  - 三密の回避 ⇒ 流通が交通を代替(通販)
  - 通信が交通の代替(テレワーク+遠隔授業)

単独、複合

### いくつかの事例

- テレワークの普及 = 通勤条件の緩和
  - ・職場、職種の選択肢の増加
  - ・企業、オフィスの立地制約の緩和 例) パソナ(淡路島)
- 通販の普及 = 移動制約の緩和
  - ・店舗減少の代替、交通弱者の救済 ⇔ 集客販売の縮小
- 遠隔医療の普及 = 医療サービスの効率化、充実
  - ・高度医療の利用、交通弱者の救済
- 遠隔講義 = 教育環境の改善
  - ・高等教育の受講、教育費(通学、住居費)の軽減
  - ⇒ 住みよさの条件の変化 ⇔ 公共交通サービスの縮小

## ■コミュニケーションとは

- ・情報の交換を通じて当事者が相互に作用しあうこと
- ・自然との対話もコミュニケーション 例え 俳句の世界「古池や 蛙とびこむ 水の音」

### 本論のコミュニケーション

- 概念
  - ・情報の交換を通して当事者が相互に作用し合うこと
  - ・目的は当事者の意図によって様々
- 概念の拡大
  - ・相手は人(他者)でなくてもよい ⇒ 自然、機械、自身
- ・自然との対話
  - 自然の営みから意味を引き出す(絵画、俳句)
- ・情報機器や情報環境との相互作用
  - 情報機器の操作 ⇒ 機器の反応 ⇒ 主体の反応
  - 情報環境 ⇒ (刺激) ⇒ 主体の反応 → 情報環境

### コミュニケーションの形態

形態	内容	対応するメディア
人 ⇔ 人	情報交換、指示 おしゃべり	直接対話、電話、 メール、手紙
人 ⇔ 特定の情報源	情報受信 情報収集/発信 娯楽	マスメディア DB, SNS テレビ放映、映画館
人 ⇔ 情報環境	情報収集 情報の受発信	不特定の情報源 ネットのサイト SNS
人 ⇔ 情報機器 (本人)	仮想遊戯 模擬体験 自己対話	ゲーム機器 パソコン 文書の作成

SNS: Social Networking Service

## ■情報とは

- ・機能として、①不確実性を減らす ②頭の栄養 ③刺激 がある。
- ・機械的処理（通信）では難しく、人間は表情や文脈で理解する。

### 情報の3つの機能

#### ① 不確実性を減らす

・通信工学(エントロピーで把握) ⇒ 合理化に役立つ

#### ② 頭の栄養: 情緒的欲求、知的好奇心を満たす

⇒ 脳の空腹(梅棹)

・優れた芸術、愛情表現、新奇な諸説

#### ③ 刺激: 五感を刺激して反応を生み出す

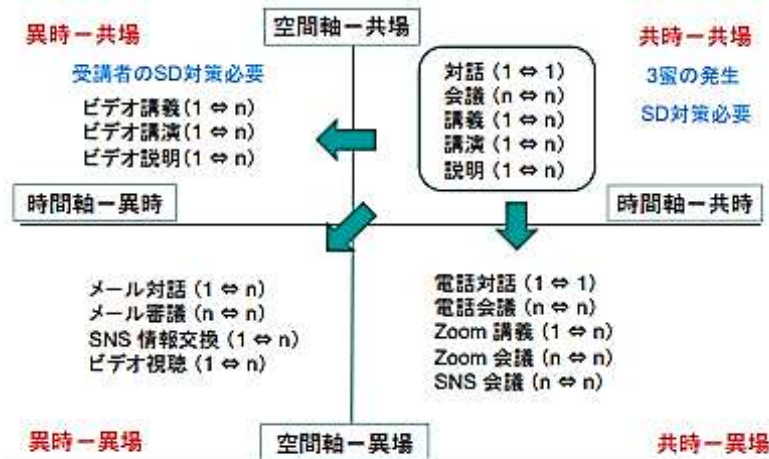
・欲求の発現(関心事の増加) ⇒ 不確実性の増大

### 性質による分類Ⅲ(今井 1984)

情報A (形式的情報)	情報の意味内容を問わずに、もっぱら情報の形式だけに着目した機械化によっても処理可能な情報
情報B (意味的信息)	情報の意味内容を重視し、いかなる人間同士の連結や文脈のなかで生産され伝達されたかによってその意味内が異なる情報

情報Aは機械的処理が容易 ⇒ 情報Bは機械的処理が難しい

## ■コロナ禍によるコミュニケーションへの影響



SD: Social Distance, DB: Data Base, SNS: Social Networking Service 21

- ・コロナ禍により、空間の共有(共場)、時間の共有(共時)から、別の空間(異場)や別の時間(異時)に移行。
- ・例えば、遠隔授業では、冗談が言えず学生の笑いが少ないなど、雰囲気伝わらない、一体感が持てないなどの状況が生じている。
- ・今後のコミュニケーション構造の進化には、臨場感の醸成、情緒の交流、孤立の払拭などの緩和が望まれる。

### 遠隔コミュニケーションのデメリット

- メディアに乗りにくい情報の欠落
  - ・雰囲気、相手との相互作用(表情、しぐさ)
  - ・一体感
  - ・情報B(意味的信息)
- 情報漏洩のリスクの増大
- 自画像へのストレス
- コミュニケーションの形態による問題(n大)
  - ・n×n: 形態を問わず効果的なコミュニケーションは難しい
  - ・1×n: 質疑応答では遠隔の方が難しい
  - ・1×1: やり方によっては遠隔の方が容易

### 遠隔コミュニケーションの課題

- ① 臨場感の醸成(メディア技術+慣れ(心理的要素))
- ② 情緒(感情、思い)の交流(メディアの進化+心理的要素)
- ③ 孤立感の払拭(メディア技術+受信場所+心理的要素)
- ④ メディア操作の簡易化(メディアの進化+使用者の技能)
- ⑤ トラブル処理の迅速化(メディアの性能+使用者の技能)
- ⑥ 多様な双方向の情報伝達(メディア技術+使用者の技能)
- ⑦ 情報源の整備/拡充、利用サービスの改善  
(DBの充実+ネットワーク化)
- ⑧ 情報の信憑性、サイトの信頼性  
(セキュリティ対策+使用者の警戒)

## ◆意見交換

- 遠隔コミュニケーションにより、通勤の形が変わる。職住近接というニュータウンの理念に繋がる。
- リモートには、雑談性がなくなり、なにかヒントを生み出すことができないのでは。限界があるのでは。→リモート会議では、相手の反応がわからず、つかみどころがなく話がまとまらないが、対面ならまとまる。テレワークは生産性向上、ストレス軽減などメリットがあるが、人間的側面に課題がある。(植野)
- テレワークに向けた仕事がある。世界、国レベルのもの、例えば、国発注の地方工事などで、現地の工事の管理がリモートで可能、非常に便利。(文責 橋本)

西神ニュータウン研究会

〒651-2103 神戸市西区学園西町 1-1-1  
TEL: 078-794-4970 FAX: 078-794-4910

UNITY内